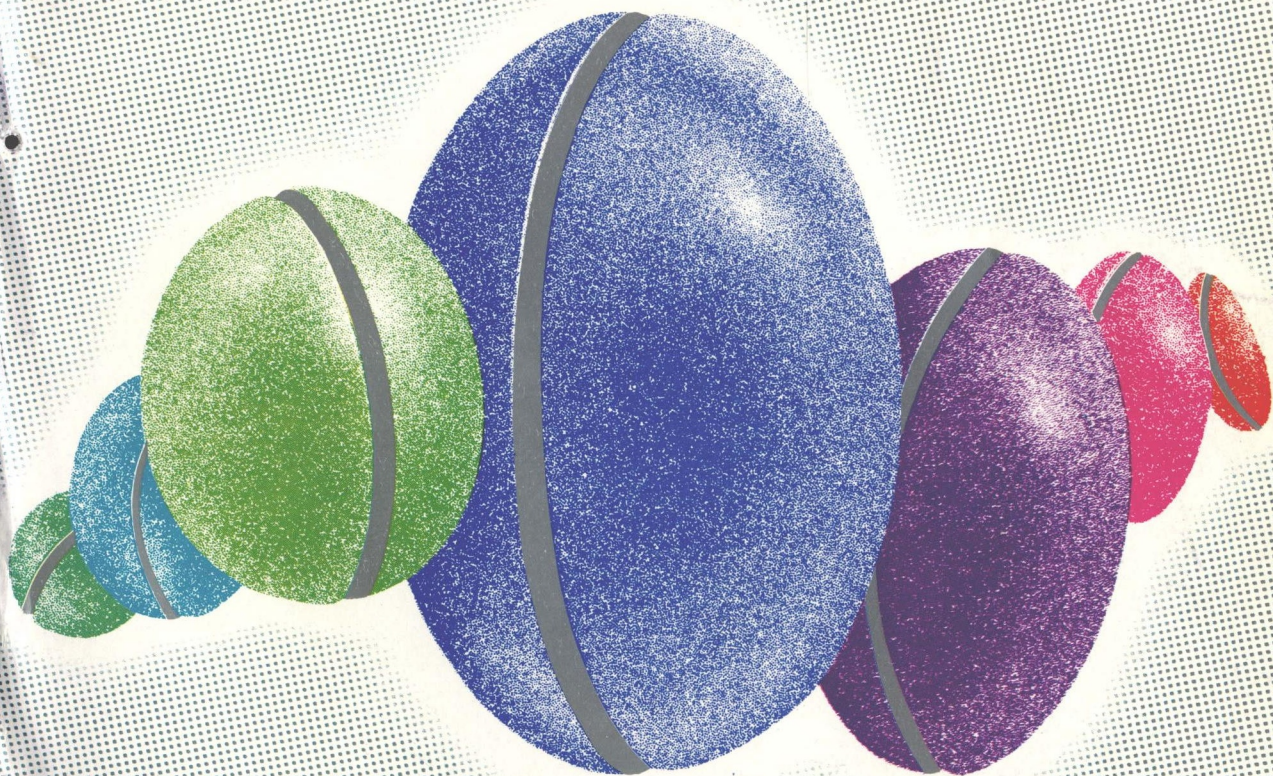


San-ai

三愛会会誌 No.60 '69-7
特集：断絶から創造へ



第1回市村賞の贈呈式



新技術開発財団鍋島会長の挨拶

昭和44年4月4日午後4時、東京赤坂のホテルオークラで第1回市村賞の贈呈式が行なわれた。この4が五つ並んだめずらしい日時は、新技術開発財団の設立を提唱し、時価30億円の有価証券を寄付された故市村清三愛会会長の誕生日である4月4日にちなんだものである。「市村賞」は国産の独創的な技術開発で経済効果が大きく社会に貢献するもの、および独創性にとんだアイデアを顕彰するものである。第1回に受賞したテーマと受賞者は次の方々である。

<本賞> 300万円

「合成紙（Qパー、Qコート）の開発とその企業化」

日本合成紙（株）

取締役社長 安 得三氏ほか3名

<奨励賞> 100万円

「波力発電ブイの開発」

防衛庁技術研究本部 益田善雄氏ほか2名



審査経過を述べる篠原選考委員長

「酵素を使用する甜菜糖製造新技術の開発」

通商産業省工業技術院発酵研究所 微生物応用第二部研究室長 鈴木英雄氏ほか4名

<アイデア賞> 10万～20万円

「皿型ビス用スプリングワッシャーと段付皿ビスの組み合わせ」

古賀商事(株)取締役社長 古賀常次郎氏

「メリヤス生地 of 捺染技術の開発」

福島県繊維工業試験場

主任研究員 吉田修氏ほか4名

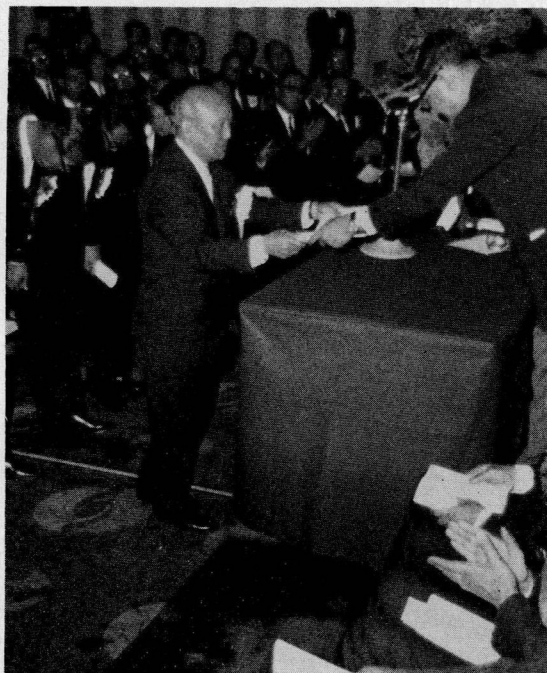
「小型電球自動継線ユニットの開発」

日本輸出電球協同組合

代表理事 増淵正三氏ほか5名

「市村賞」の贈呈式につづいて、昭和43年度分のアイデア技術開発費の助成も行なわれた。新技術開発財団の事業のうち、もっとも重点を置かれているのがこのアイデア技術の開発で、独創的な国産技術で経済的効果が大きく期待できるものに対して、開発費を助成するものである。

昭和43年度分のテーマ、開発者、助成額は次の



「市村賞」本賞の贈呈を受ける日本合成紙の安社長

とおりである。

「空気滅菌清浄機の開発」

空気清浄研究所 所長 手塚 幸策氏

120万円

「高分子のエレクトレット熱分析法の研究」

理化学研究所 研究員 高松俊昭氏ほか1名

初年度分として 110万円

「単色発散X線を用いるX線回折カメラの試作」

理学電機(株)

研究部長 吉松 満氏ほか1名

120万円

「市村賞」は誰でも応募でき、締切は毎年12月末日、翌年の4月4日に贈呈式が行なわれることになっている。

「アイデア技術開発費の助成」は誰でも申込むことができ、締切はとくになく、3～4ヵ月毎に助成が行なわれる。

応募、申込の方法は財団所定の用紙に必要事項を記載して提出すればよく、財団の所在地は次のとおりである。

所在地 東京都中央区銀座 6-14-6

リコー三愛ビル

電話 (543) 1550 郵便番号 104



市村幸恵夫人をかこんで